

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



前号に引き続き、カメラマンの橋本紘二さんが撮影した大同の農村の写真です。みんなで川でお洗濯。

Contents

- GEN26 回総会の報告 P 2
- 若手メンバーによるワーキンググループ立ち上げ ... P 2
- 夏季寄付のお願い 自然と親しむ会参加者募集 P 3
- あの人の人 P 4
- 大同緑化協力 25 年の軌跡 P 6

2020.7

194

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第26回総会の報告

6月13日、緑の地球ネットワーク第26回総会が開催されました。今回の総会は新型コロナウイルス対策のため、会場（大阪市立西区民センター第4会議室）での参加者は関西在住の会員のみとし、それ以外はウェブ会議システム Zoom を利用したオンラインでの参加となりました。

毎回総会に先立っておこなわれる記念講演は今回はおこないませんでした。

会員353名（団体含む）のうち、会場出席数14名、オンライン参加28名、

書面または電磁的方法による決議への参加111名、委任状提出58名、合計211名で総会が成立しました。

【議事】

2019年度事業報告・決算報告・監査報告とその承認、2020年度事業計画と予算の提案とその承認、定款変更の再確認とその承認、新役員の選出とその承認がおこなわれました。

定款の変更について、第25回総会で定款の変更を採択しましたが、第4条（会の活動とその種類）については大

阪市への変更認証申請にその年度だけでなく翌年度の事業計画と活動予算が必要であるのに、前回の総会ではその準備がなかったため、申請を見送らざるをえませんでした。その内容を今総会で再確認し、2021年度の事業計画と活動予算を提案し、承認されました。

そして、高田望さんを新しく世話人に選出しました。



GEN 若手メンバーによる ワーキンググループを立ち上げました

GEN 若手メンバーによるワーキンググループを立ち上げ、GEN の今後の活動について議論していく場を設けました。ワーキンググループの座長を務める長坂健司さん（GEN 世話人）をご紹介します。

●はじめに（自己紹介）



大学で研究者をしています。現在は、木材利用による経済影響の測定に取り組んでいます。

地域林業の再生や地球環境問題の解決に向けて木材の利用を増やすことは重要なテーマですが、それを促進するための制度設計に貢献することが研究の目的です。

農産物直売所の運営会社などで働いていた時期もありましたが、2011年の終わりから2016年の春までドイツとスウェーデンで森林政策を学んでいました。ご存じの通り、ドイツやスウェーデンは日本と同じ森林国です。ただ、日本と比べると、林業、木材産業共に存在感があります。また、市民にとっ

て森は身近な存在で、散歩やノルディックスキーを楽しむ場所であり、狩猟の場でもありました。そのような環境に影響していると思いますが、日本と比べると、森林に対する関心が深い市民が多いことが印象的でした。

● GEN との関わり

初めて GEN のワーキングツアーに参加したのは、大学4年生に進級する春休みでした。20年以上前のことになりました。ツアーに参加した理由は、当時、なかなか訪問できなかった黄土高原の農村地帯を見てみたかったからという、植林とはあまり関係のない理由でした。でも、現地を訪れてみて、植物学、生態学などの当時の第一人者の先生方と同じバスで移動し、現地の活動の様子を科学的に、でも分かりやすく説明してくれる時間がとても面白く、その後

何度も参加することで、中国社そのものの急速な変化を目の当たりにすることもできました。初めて行ったこ

ろは、霊丘県、陽高県、天鎮県などの農村部での宿泊先は県の招待所で、今となっては想像できないぐらい質素なものでした。県境のトンネルで何時間も立ち往生したことも、懐かしい思い出の一つです。

●今後やりたいこと

森林を再生する仕事は、長い時間がかかります。GEN が大同で活動を行ってきた25年は、人の感覚でいうととても長いものです。しかし、持続可能な森林経営という観点で考えるとまだまだ多くの課題が残されています。例えば、これまで大同の植林地では基本的に人の出入りが制限されていました。これは、山火事の防止という側面が大きかったと思います。しかし、今後、成長した木を資源としてどのように利用していくか、それに伴い、間伐や主伐をどのように行っていくかといった課題が出てくる可能性があります。研究者の立場から、こういった課題にみんなの形で貢献したいと考えています。

また、今後の GEN の活動のあり方を考えるワーキンググループの座長を仰せつかっています。30周年を迎える2022年の総会を目前に、将来のあり方の案を提示できたらよいな、と思います。

夏季寄付のお願い

いつも GEN を応援していただき、どうもありがとうございます。今回は夏季寄付のお願いです。

今年度予定していた黄土高原スタディツアー、探鳥ツアーは新型コロナウイルスの影響で中止となり、GEN の事業収入は大幅に落ち込んでいます。

今後の見通しがたない状況が続いていますが、蔚県プロジェクトは途切れることなく今年も植樹作業をおこなっています。GEN の活動をこれからも継続していくため、なんとかこの困難な時期を乗り越えたいと思います。みなさまのご協力をお願いいたします。

ご送金には同封の郵便振替の用紙をご利用ください。発送作業の都合上、一律に同封しますが、最近ご協力いた

だいた方には重ねてのお願いではありません。銀行振込でご送金いただく場合は電話、メール、ファクスなどでお名前、連絡先、寄付の用途を GEN 事務所までお知らせください。

【銀行口座】

三菱 UFJ 銀行 阪急梅田北支店 普通 5284852 緑の地球ネットワーク クレジットカードで年会費・寄付の決済ができます。クレジットでの決済をご希望のかたは GEN ホームページからお願いいたします (https://gen-tree.org/join_donate/credit.html)。

どうぞよろしくお祈りいたします。

【GEN への寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

GEN は大阪府に認定された認定 NPO

法人です（期限は2024年4月8日）。個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは、緑化基金、運営資金、おまかせ寄付と会費のうち一口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪府民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくは GEN までご連絡ください。

GEN 自然と親しむ会 今後の予定

◆前中代表と歩く「野の道」シリーズ
⑬大阪府立花の文化園で植物観察

○日程：9月26日（土）

○場所：大阪府立花の文化園（大阪府河内長野市高向2292-1）

◆秋のキノコ観察会

○日程：10月中旬

○場所：万博記念公園（大阪府吹田市千里万博記念公園1-1 大阪モノレール「万博記念公園前」駅より徒歩5分）

○講師：栗栖敏浩さん（樹木医）

◆無煙炭化器を使った炭焼き

○日程：11月頃

○場所：西宮市武庫川河原（JR 福知山線「武田尾」駅付近）

※詳細は次号でご案内します。状況により変更になる可能性があります。

参加者募集

GEN 自然と親しむ会

ツバメのねぐら入り観察会

ツバメは春から夏にかけて日本へやってくる渡り鳥で、日本で巣作り・子育てをし、秋になると台湾、東南アジアなどへ帰っていきます。ひなが大きくなり、巣立ったあとにエサをたくさん食べて渡りのための準備をしているあいだ、夜は河川敷などで集団で休んでいます。

今回は GEN の野鳥調査にご参加いただいている高田直俊さんの案内で、淀川鶴殿のヨシ原でツバメのねぐら入りを観察します。日没にかけて数千から数万羽のツバメたちが一斉に舞い降りるさまを観察します。ツバメのねぐら入りはこの時期しか観察できません。この機会にぜひご参加ください。

○日時：8月8日（土）17時55分～

19時30分ごろ※小雨決行

○場所：高槻市淀川鶴殿

○集合：17時55分に「道鶴町」バス停（JR 高槻駅17時27分発、阪急高槻市駅17時31分発の高槻市営バス（道鶴町行）に乗ると17時50分に道鶴町バス停に着きます）

○案内：高田直俊さん

○定員：15名程度

○参加費：700円（保険料をふくむ）

○持ち物：懐中電灯、歩きやすい服装・靴（虫よけ対策をしてお越しください）、飲み物、雨具、あれば双眼鏡、

野鳥図鑑

○問合せ・申込み：8月5日（水）

までにお名前、生年月日、連絡先を GEN まで

※状況により、変更・中止の可能性が





あの人の人

192号から数年ぶりに「あの人の人」のコーナーを再開しました。個性豊かな GEN 会員のあれこれを掲載していきます。

町田 良太さん (京都府)

・簡単に自己紹介をお願いします。
いつまでも若手扱いが心苦しい 1972 年生まれです。大学卒業後は 6 年ほど林野庁に在籍し、北海道の国有林管理に従事しました。退職後中国へ渡り、NPO の緑化活動や語学留学を経験。
2005 年以降は国際協力機構 (JICA) の技術協力プロジェクトやボランティア事業のコーディネーターとして中国、キルギス、ネパール、ブータンで仕事をしました。現在は、恥ずかしながら無職素浪人の身です。
・ GEN に入ったきっかけは？
2003 年の林野庁退職と前後して、森林・林業に関わる国際協力の仕事がしたいとの思いが募り、職探しの一環で GEN の事務所を訪問したのが縁の始まりです。今振り返ると、後先考えずに行動できた頃の恥ずかしくも懐かしい思い出です。



・いつから GEN に参加しましたか？
中国での語学留学中、2004 年春のスタディツアーへの参加を契機に会員となり、2015 年からは、名ばかりながら役員を務めさせていただいています。
・印象にのこっている GEN の活動は何ですか？
2008 年に参加した植生調査団の体験が強く印象に残っています。当時、大同市各地で展開されていた地道ながらも独創的な GEN の活動を見聞する中、日本と中国の緑化協力の有り方を、自分なりに改めて見つめ直すことができました。
・ GEN の良いところは？
中国の社会経済が大きく変化する中、GEN の活動も地域や内容において相応の変遷を経験しましたが、大同で成し遂げた成果は、緑化協力の成功事例として誇るべきものだと思います。一線級の専門家集団による指導、地元との強固な協働体制、多様な官民資金の導

入、そして多彩で熱心な会員の参加が融合した結果、一民間団体としては類を見ない質とスケールの仕事を実現することができました。

- ・逆に悪いところは？
悪いところというわけではありませんが、やはり、今後の組織の在り方、活動の方向性の探索が大命題ということになるのでしょうか。
- ・ GEN に期待すること
日本から中国に対する一方通行の支援という従来型の協力スタイルは、歴史的な役割を終えつつあるのかもしれませんが、何とかこれまでの経験とネットワークを活用しながら、重要な隣人である中国との懸け橋として、色々な形で息の長い取り組みを期待しています。
- ・会員のみなさんへひとこと
私自身は何も具体的な貢献ができていないので恐縮ですが、会員のみなさんが GEN への参加を通じ、多様な人と地域とつながることで、より豊かな社会のあり方、より優れた環境のあり方を学び、実践する機会が得られることを願っています。



総会にお寄せいただいたメッセージの一部をご紹介します。

○ご無沙汰しています。息子と植林ツアーに参加したのがつい昨日のようです。当時 5 歳の息子は、いまもう 23 歳です。いつか息子といっしょに大同を訪ねるのが老後の夢 (?) です。(A.J)
○30 年…月 1000 円→年 12000 円×30 = 360,000 円 安いやん!と思わずつぶやく。一人で、このお金で何ができると思うと、一人ひとりの力が集まってずっと続けてきたら、こんなに大きな力になるんだと感動!! 私はお金出ただけだけけど…お金も出し、働きもしてくださったみなさまに、敬意と感謝の気持ちでいっぱいです (K.Y)
○私は 2018 年の黄土高原スタディツアーに参加させていただき、そのときの経験や出会いは、自 (5 ページへ)

いままぐできる GEN への協力

- 会員の輪をひろげよう!
緑の地球ネットワーク会費 (年額)
一般会費 12,000 円
家族会費 (同居の家族 2 人目から) 6,000 円
学生会員 3,000 円
ジュニア会員 (中学生以下) 1,000 円
団体会員 12,000 円
賛助会員 100,000 円
※会費は会報購読料を含んでいます。
■会報を購読してください!
GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料 2,000 円。
■緑化資金、運営寄付もとむ
金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要



(4 ページより) 分にとってとても貴重なものになっています。それも支えていただいた方々のおかげです。現在は新型コロナウイルスの影響で不安もある日々ですが、皆様のご健康を心からお祈りしております。(T.S)
○コロナの混乱の中、オンラインで遠方の人たちとつながる新しい動きが出てきましたね。大学の講義もオンラインで行っており、予想もしなかった形での新しい時代の幕開けを感じるこの頃です。しばらくはツアー開催が困難な情勢とは思いますが、様々な形で人と人とのつながりは続いていくことと思います。とはいえやはり百聞は一見に如かずで、現地を訪ね現地の人々とともに活動することの大切さはどのような時代、状況でも変わらないと思います。コロナが収束し、ツアーが開催できることをお祈りしています。(F.K)
○近頃の中国関連の話題に私の気持ちは揺れます。そんな逆風の中、GEN の皆さんの頑張りは灯りです。きれいな

- にに応じて使わせていただきます。
*緑化資金の 20% は事務管理費になります。
■絵はがき『黄土高原の花』
8 枚組・300 円 (送料別途。5 セット以上送料無料)
■書き損じはがきを集めています
書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。
■未使用切手・古切手を集めています
普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。
■ボランティア募集
会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

を言っているのかもしれませんが、もう三十年以上経ちますが人と人の関係を「中国人はご恩をいつまでも忘れません」と言った中国研修生がいました。私にはちょっと重すぎる言葉でした。我が家の娘たちはアレルギー症で春先になると困っています。黄土高原の緑化は黄砂を抑え、結局私たちの健康のために大事なのだと思っています。(K.H)
○会社員として忙しく仕事をしてはいますが、なかなか社会貢献といったことが感じにくい日々です。ただ GEN の会員であることが、私にとって仕事以外で唯一「社会貢献」と感じられる繋がりとも感じています。2014 年にツアーに参加して以来、積極的に参加できていませんが、細く長く一会員として、関わることができればと思います。(M.O)
○人と会えない、外に出られない日々が続きますが、人との心の距離はなんだか今までよりも近くなったと感じるこの頃です。いろんなことが変わりま

したが、悪いことばかりでもないですね。オンライン総会、世界中どこからでも参加が可能になるのですから、これも GEN に関わる人たちのつながりが近くなり広がるきっかけになることを願っています。(M.R)
○私の記憶にある限りでも反日デモ、SARS、尖閣問題そして今回の新型コロナウイルスと、中国絡みの難しい問題は枚挙に暇がありません。そんな御しがたくも重要な隣人との付き合いを地道に続けてきた GEN の取り組みには感服、感謝しかありません。取り巻く情勢が大きく変化する中、GEN の活動が岐路を迎えていることは間違いのないところかと思えます。どのような方向を選択するとしても、GEN の応援を続けたいと思います。(M.R)
○日中の外交関係がどうあっても、草の根のつながりが未来を明るくすると信じております。(H.J)
○ご多用中のところ大部の資料をお届けくださり、ありがとうございます。まだ行くことのできていない蔚県の事情がよくわかりました。まさに万全準備ですね。でも只欠東風、今後のも日本からの東風が熱く、強く吹き続けたいものです。(K.N)
○議案書、一読いたしました。これまでの成果などを形として残すこと、とてもいいと思います。お若い方たちや中国がキラキラな方たちにも届くようなものになるといいですね。中国の方たちにもわかっていただけるといいなあ。絵本のような、もしくは写真で、感性に訴えるようなもので子供でもわかるようなもの。素材としては充分あると思います。先日、友だちと電話で話していて、GEN のことに、ちらっと触れたら「なんで中国に木を植えないかならないの」と、ざっくり言われました。彼女は、中国の方たちが多いまちに住んでいます。厳しいですね。(S.K)

STAY HOME でできる! 平城宮跡に向かうツバメを観察しよう 調査にご協力ください

奈良周辺にお住まいの方、自宅でするツバメ観察調査に参加してみませんか。
奈良つばめねぐら子供研究部と日本野鳥の会奈良支部は 2012 年から毎年平城宮跡のヨシ原でつばめねぐら入りを観察しています。毎年たくさんの方が観察会に参加していましたが、今年は観察会が中止されたため、調査ができません。そこでみなさんの自宅から平城宮跡へむかうツバメを家で観察して記録してほしいという連絡がありました。

方法は簡単で、記録用紙に観察記録を記入し、メールで送るといものです。集まった記録は日本野鳥の会奈良支部の Facebook で報告するとともに、自然史フェスティバルなどで奈良つばめねぐら子ども研究部が発表する予定です。ご協力いただけるかは奈良つばめねぐら子ども研究部までメールにて連絡ください。
○問合せ: 奈良つばめねぐら子ども研究部 (e-mail: naratubame1@gmail.com)
○期間: 7 月 25 日 (土) ~ 8 月 2 日 (日)



大同緑化協力 25 年の軌跡

エネルギー革命は大同から…

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で20回目です。(高見邦雄)

大同は中国有数の石炭産地です。石炭を利用する大きな発電所が2つあり、第1発電所は市内の電気をまかない、第2発電所でおこした電気を全量を北京に送っています。第2発電所の構内でつかう電気も第1発電所で発電したものでした。

初期のことですけど、大同にいるとき、私はいつもビデオカメラを携えていました。第2発電所にカメラを向けていたら、中年の男が話しかけてきました。「電気はみんな北京に行き、ここには汚染だけが残る」というのです。彼のほうにカメラをむけて、もういちど話してと頼んだら、居住まいを正して「首都に貢献できるのは大同市民として光栄なことだ」と言うのです。

協道にそれですけど、日本に留学していた北京の友人が「日本人は本音と建前の差が大きい」と話したものですから、私は「いや、中国人のほうが多い」といって、例としてこの話をあげました。すると彼は、「中国人はつねに本音です。しかしその本音はときとばあいによって変化する」と言いましたよ。

その大同ですけど、1990年代は停電が多かったですね。とくに農村部では。ツアー参加者といっしょに農家に泊まっていると、よく停電になりました。真っ暗になります。星がきれいなんです。庭に出て、寝ころがって空をみると、星に手が届きそうに思えます。若い人のなかには天の川をは



大同の第2火力発電所

じめて見たという人もいて、怖くなりますと話していました。私たちが熱心に星をみつめていると、農家のあるじが「日本には星がないのか?」と問いかけてきました。

その大同が変わりつつあります。県と県の境界はたいてい山ですけど、その稜線にずらりと風力発電が並んでいます。大同では一年に一度だけ風が吹く、春に吹き始めて冬まで吹く、という言い方があります。それくらい風が吹き、しかもその多くが西北の一方からのものです。実験林場カササギの森のあたりは、風の吹き出し口で風口と呼ばれています。モンゴリマツ(樟子松)はあまり影響を受けませんが、アブラマツ(油松)は風が強いと上に

伸びないで、ぐずぐずしています。で、私は「こんなところは木を植えるより風力発電にでも使った方がいい」なんて言っていましたら、その直後に調査用の鉄塔が立ち、やがて奥の稜線に風車はずらりと並びました。

もう一つが太陽光発電です。これが集中しているのは大同県あたりの塩害地です。Google Earthが使えるかたは北緯39度58分30秒、東経113度27分のあたりをみてください。1.4km×1.8kmもの面積を占めるメガソーラーがあり、それも一つではありません。すこし東にはパンダの絵のソーラーもあります。パネルには白いものと黒いものがありますが、この2色で描けるのはパンダくらいですね。

2013年8月に世界13か国の35大学が参加する太陽エネルギー利用のコンテストが大同で開かれましたけど、そのあたりから急速に拡大しました。そして、いま「大同開始エネルギー革命」(エネルギー革命は大同から)なんてスローガンをたくさんみかけます。いい方向に変わってほしいものです。

参加者募集

GEN 関東フランチ オンライン月例会

しばらくお休みしていた関東フランチの月例会を、7月よりオンラインで再開します。今後、原則として毎月第4土曜日の15時からオンラインで月例会を開催します。住んでいる地域を問わずご参加いただけます。月例会の案内は関東フランチのメーリングリストから発信しますので、関東在住者、GEN会員か否かにかかわらず、メーリングリストへの登録をお願いします。登録希望のかたは、上田信さん(ueda@rikkyo.ac.jp)までご連絡ください。

【7月度月例会】

- 日時：7月25日(土)15時～ ウェブ会議システム Zoom 利用
- 話題提供：原裕太さん(GEN 会員 東京大学大学院 総合文化研究科・教養学部 附属教養教育高度化機構(SDGs 教育委推進プラットフォーム) 特任助教)
- タイトル：「SDGs時代の黄土高原を考える・地理学・地域計画の視点から」
- 内容：GENが長年活動してきた場所、中国・黄土高原。しかし「黄土高原」と言っても日本より広い面積があります。今回は、講演者自身がこれまでにフィールドで撮影した写真や、山西省のお隣陝西省北部の最近の景観、くらし等をご紹介します。GENのツアーに参加されたことのある方は、山西省大同市や河北省蔚県のようすとも比較してみてください。そして気付いたことがあれば教えてください！ また、いま話題の「持続可能な開発目標」(SDGs)にも触れながら、GENの活動が果たしてきた意義や、自然と社会、開発のあり方について、あらためて一緒に考えてみたいと思います。

黄土高原史話 <99>

文帝乙弗皇后の悲劇(中)

谷口 義介 (GEN 会員)

『北史』巻13「后妃伝」にいう。

「時に新たに関中に都し、務めて東討せんと欲するも、蠕蠕を寇し、未だ北伐するに遑あらず。故に帝(文帝)、婚を結びて以て之を撫げんとす。是に於て改めて悼后(郁久閭氏)を納る。后(乙弗氏)に命じて別宮に遜居し、出家して尼と為さしむ。」

つまり、乙弗氏が皇后の地位を追われ、かわって蠕蠕出身の郁久閭氏が悼后として立てられたのには、きわめて政治的な理由があったのだ。

この間の経緯を、いまま少し細かく追ってみよう。

『北史』巻5「魏本紀」文皇帝の条によると、大統四年(538)、

二月、東魏、南汾・潁・予・広の四州を攻め陥とす。皇后乙氏を廢す。

三月、蠕蠕の女(むすめ)郁久閭氏を立てて皇后と為す。

七月、東魏の将侯景等、洛陽を囲む。帝(文帝)、安定公宇文泰と与に東伐す。」

そもそも、西魏にとって東魏は、近親憎悪もあってか不倶戴天の敵、いうところの主要矛盾。西魏の実力者・宇文泰にとっても、東魏政権を動かす高歡は、同じく北辺の六鎮から身を起こした格上のライバル。535の成立当初から、東伐は最大の懸案事項にほかならない。ところが、

536年春正月、東魏、夏州を攻め陥とす。

537年冬10月、安定公宇文泰、大いに東魏の軍を沙苑に破る。

と、東魏は連年攻め込んできて、このたび538年2月、また西征して上記の4城を抜いたのだ。

ただちに反攻して奪還したいところだが、西魏にはそれができない事情がある。関中の北に蠕蠕がいて、辺境を侵してくる。これを副次的矛盾といってよい。もし兵を東に向けるなら、必ずや背後を衝いてくるだろう。そこで西魏がとったのが、蠕蠕との政略結婚

にほかならない。この策は、おそらく数年前から宇文泰により練られたもので、傀儡的存在の文帝はこれを吞まざるをえなかったのだらう。

さて蠕蠕とは、字面からして何やらおどろおどろしい感じがするが、別に芮芮とか茹茹。ふつうは柔然と表記される。いずれにせよ、原音を漢字で写したもの。4世紀中ごろから6世紀中ごろまで、モンゴル高原を疾駆した騎馬遊牧民族で、モンゴル系とみられている。北魏王朝を建てた同じモンゴル系の鮮卑拓跋部と仲が悪く、初めはこれに従属したが、4世紀末ごろから北魏に対抗。5世紀初めには、モンゴル高原を中心に、東は朝鮮に接し西は新疆ウイグル自治区の焉耆(カラシャール)に及ぶ広大な地域で活躍した。402年、初めて可汗(カガン)を王を称す。しばしば北魏の領域を侵犯し、西域への通商路(いわゆるシルクロード)を妨げるなどトラブルが絶えなかったが、北魏第8代孝明帝(515～528在位)のとき、初めて朝貢。つまり表敬訪問して、どっさり土産物ももらって帰ったわけだ。

520年、阿那瓌に至り、蠕蠕王に封じられる。523年、匈奴(トルコ系)出身の破落汗拔陵が北鎮の一つで乱を起こすと、北魏の征討軍に協力して、これを破った。以後、蠕蠕の遣使朝貢は盛んになるが、この阿那瓌こそ「蠕蠕の女(郁久閭氏)の父にほかならない。

第12代孝武帝(532～539在位)のときも、しきりと使者を送ってきて、532年6月、長男のために北魏の公主の降嫁を乞うた。願いは容れられて、翌533年4月、范陽王の長女・琅琊公主が候補になったが、「未だ婚に及ばずして、帝は関に入る」。つまり、孝武帝が534年6月、洛陽を出て関中の宇文泰のもとに走ったので、話はオジャンになってしまった。

そこで阿那瓌が今度は有力王族・齊の献武王に頼み込むと、献武王は善処してくれ、常山王の妹・楽安公主を蘭陵公主として降嫁。蠕蠕から、馬1000

頭が贈られた。「これより(東魏の都鄴への)遣使朝貢相ひ尋ぐ」と。さらに阿那瓌は献武王に「愛女(まなむすめ)を致そうとして、東魏・静帝(535～551在位)の嘉するところとなった」と(以上、『魏書』巻103「蠕蠕伝」)。すなわち、北魏が東・西に分裂したころ、蠕蠕は東魏側ときわめて親密で、西魏とはよそよそしい関係にあったのだ。

こうした蠕蠕と東魏の連携(?)を断ち切るべく、おそらく宇文泰が画策したのが文帝と郁久閭氏との政略結婚にほかならない。この策は図に当たり、蠕蠕は南下して来ず、立後の四ヶ月後、文帝と宇文泰は安心して東に向かい、東魏の侯景らが包圍する洛陽に進撃した。

しかし、尼にされてからの乙弗氏には、さらに過酷な運命が待っていた。文帝は後悔したが、時すでに遅し。そして、悼后郁久閭氏の身の上にも……。

会報『緑の地球』を電子版でお届けします

現在、ご希望のかたにGENの会報『緑の地球』の電子データをe-mailでお届けしています。

経費と資源の節約にご協力いただけるかた、また、印刷物がたまって困る、パソコン等で気軽に読みたいというかた、GEN事務所までお名前と会報送付アドレスをご連絡ください。次号よりPDFファイルにて送付します。



情報ひろば
いっしょなかたち

舞鶴パーム油発電完全撤退！

市民の力で事業を止めた7人の侍
熱帯林開発圧力を高める
パーム油発電を知る勉強会

舞鶴のパーム油発電計画に対し、地域住民による反対活動成功の報告と今後の問題などを話し合います。オンラインでのご参加も可能です。

○日時：7月19日（日）13時30分～16時30分 終了後、希望者のみ懇親会

○場所：ドーンセンター特別会議室（京阪電車「天満橋」駅、大阪メトロ谷町線「天満橋」駅1番出口から東へ350m）

○参加費：無料

○定員：会場50名、オンライン配信100名

○内容：(1) 熱帯林開発圧力とパーム油発電：石崎雄一郎さん（ウータン・森と生活を考える会）

(2) 舞鶴パーム油発電完全撤退へ！活動と成果を振り返る：大西寛治さん（喜多地区環境保全委員会委員長）森本隆さん（舞鶴西地区の環境を考える会代表）

(3) 日本全国のパーム油発電阻止へ！私たちになにができるか：三恵バイオマス発電所の現状、市民による情報公開請求の権利と重要性、東北でのH・I・Sスーパーエナジーの動き

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

や国のFIT（固定価格買取制度）への要望など、オンラインを交えての情報共有、意見交換

○申込み：ウータン・森と生活を考える会ホームページ内にある申込みフォームよりお申込みください。

○主催・問合せ：ウータン・森と生活を考える会（〒530-0015 大阪市北区中崎西1丁目6-36-308 URL <http://hutangroup.org>）

※詳細は各映画館のホームページ等でご確認ください。

○上映会：◆8月15日19時～Social Book Cafe ハチドリ舎（広島）上映&トーク◆8月23日14時～とりぎん文化会館第1会議室（鳥取）主催：鳥取コミュニティシネマ

○『蟻の兵隊』公式サイト：<http://renuniverse.com/ari/index.html>

編集後記

GEN 会員のかたはご存知の方が多いと思いますが、6月は環境月間でした。これは1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものだろう。毎年6月中は全国でさまざまなイベントがおこなわれますが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止となり、残念でした。

自分が6月にした環境のための行動といえば、7月からの買い物袋有料化に備えて買い物用のエコバックを用意したくらいでなんともお粗末。環境月間には間に合いませんでしたが、いつかやろうと思っていたコンポストのセットを購入し、生ごみを減らす作戦を細々と実践中です。（河本）

池谷薫監督作品
『蟻の兵隊』
全国上映ツアー

終戦75年の今夏、日本軍山西省残留問題に切り込んだドキュメンタリー映画『蟻の兵隊』の全国ツアーをおこなっています。

○劇場上映：8月1日～長野ロキシー（長野）／8月8日～ポレポレ東中野（東京）・元町映画館（神戸）／8月9日、10日 DORA ホール（旧宮古シネマリン）（岩手）／8月15日～シネマ・ジャック&ベティ（神奈川）／8月22日～28日シネ・ヌーヴォ（大阪）・シネ・ウインド（新潟）／9月5日～桜坂劇場（沖縄）／8月中公開予定 名古屋シネマテーク（愛知）、京都シネマ（京都）第七藝術劇場（大阪）

